

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

三区間交流事業

実 施 報 告 書

(令和元年 7 月 23 日～26 日)



令和元年 1 1 月

目黒区・目黒区教育委員会

【目 次】

I	はじめに	1
II	三区間交流事業（ソウル特別市中浪区）【7月23日～26日】	
1	目的	2
2	主催者	2
3	日程	2
4	目黒区選手団及び代表団の構成	3
5	概要	4
6	まとめ	16
7	三区間交流事業報告書（目黒区選手団団長）	17
8	交流レポート（目黒区選手12名）	18
III	おわりに	25

【参考資料】

三区間交流事業事前調査（ソウル特別市中浪区）【4月17日～19日】

1	目的	26
2	日程	26
3	訪問団	26
4	概要	27
5	まとめ	30

I はじめに

目黒区と北京市東城区との交流は、昭和54年に東京都が北京市と友好都市の提携を結んだことから、2年後の昭和56年に当時の目黒区長が北京市を訪問、その折、当時の北京市崇文区（現在の東城区）を訪問したことがきっかけで、崇文区と目黒区との交流が始まりました。

その後、平成3年に崇文区と目黒区は友好都市協定を締結したことにより本格的な交流が始まり、相互に友好交流団を派遣するなど交流を推進してきました。また、平成22年に崇文区と隣接する東城区が合併したことに伴い、平成23年に東城区と目黒区は改めて友好都市協定を締結し、この間も目黒区議会の訪中、両区の児童・生徒による書画作品展の開催や小学生による年賀状交換など様々な交流を続けてきました。

一方、目黒区とソウル特別市中浪区との交流は、崇文区と中浪区が友好都市関係にあることから、平成22年に中浪区から目黒区に対して友好交流要望があり、その年に相互に代表団が訪問するなど交流が始まりました。平成25年には、「友好増進及び交流協力覚書」に調印し、両区の小学生による賀状の交換を開始したほか、平成26年には、目黒区スポーツ交流団が中浪区を訪問してバレーボールの交流試合等を行うなど、交流を推進してきました。

東城区と中浪区との交流推進に向けて、平成27年7月には東城区長及び人民代表大会常務委員会主任から招聘を受け、区長、議長をはじめとした目黒区代表団が文化・芸術、教育、スポーツなどの分野で様々な交流の発展を目指していくため、東城区を訪問しました。その際、目黒区長から当時の張家明（ジャン ジャミン）東城区長に対して、中浪区も含めた三区間での青少年同士の交流ができないかと提案を行い、東城区長から前向きな回答を得ました。

その後、平成28年7月に東城区で行われた三区による実務者協議等を経て、翌平成29年7月に東城区において、目黒区・東城区・中浪区の三区による第1回の三区間交流事業が実施されました。青少年の交流種目としてバスケットボールが採用され、三区の中学生がスポーツの試合を行い、また文化交流や同じテーブルで食事を共にすることで、草の根の友好交流が実現できました。

平成30年7月には、目黒区が開催区として、東城区、中浪区の中学生等を招き、第2回の三区間交流事業を実施しました。バスケットボールによるスポーツ交流、茶道や剣道の体験などの文化交流を通じて、お互いを認め合い親しみをもって語り合う参加者の姿を見ることができました。

その後、平成31年4月に中浪区において、第3回目の実施に向けて三区による実務者協議及び意見交換が行われ、開催日程や交流内容等について確認を行いました。

こうした経過を踏まえ、本年7月23日から26日にかけて、中浪区において三区間交流事業を実施しました。

本報告書は、この事業実施結果をとりまとめたものです。

Ⅱ 三区間交流事業（ソウル特別市中浪区）【7月23日～26日】

1 目的

友好都市である中国北京市東城区及び友好交流覚書を取り交わした韓国ソウル特別市中浪区との継続した友好交流を推進するため、次代を担う子どもたちによるスポーツ交流及び文化交流事業を行う。

2 主催者

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

3 日程

令和元年7月23日（火）から7月26日（金）までの4日間

月日	時間帯	内容	場所
7月23日 （火）	午前	・中浪区到着	—
	午後	・各区選手練習 ・目黒区代表団 中浪区庁長訪問 ・歓迎夕食会	中浪文化体育館 中浪区役所 区長室 空庭園ザ・パーティ
7月24日 （水）	午前	・バスケットボール大会開会式 ・第1試合（東城区対中浪区）	中浪文化体育館
	午後	・テコンドー演武観覧 ・第2試合（目黒区対中浪区） ・中浪区内視察	中浪文化体育館 龍馬滝公園 クライミング競技場
7月25日 （木）	午前	・第3試合（目黒区対東城区） ・バスケットボール大会閉会式	中浪文化体育館
	午後	・文化交流（ジップライン）【選手団】 ・文化交流（韓紙工芸）【選手団】 ・三区による代表者会議【代表団】 ・歓送夕食会	中浪キャンプの森 オンギ（甕）テーマ公園 中浪区役所 企画状況室 ウィザース中浪
7月26日 （金）	午前	・ソウル市内視察【選手団】 ・友好都市協定締結式【代表団】	景福宮 中浪区役所 企画状況室
	午後	・ソウル市内視察【選手団】 ・帰国	清溪川博物館 —

<参考> 経費負担

宿泊旅費、海外旅行保険、旅券交付手数料、ユニフォーム等3, 336千円余。

※三区間の取決めにより、現地車両費、通訳士経費、夕食会経費は中浪区が負担。

4 目黒区選手団及び代表団の構成

(1) 三区間交流選手団 (22名)

団 長 金子 弘樹 目黒区立第十一中学校長
団 員 (指導教諭)
伊藤 陽一 目黒区立第七中学校教諭
柿澤 祐太 目黒区立目黒中央中学校教諭
(養護教諭)
菊地 昌子 目黒区立第八中学校主任養護教諭
(事務局)
竹内 聡子 文化・スポーツ部長 (代表団団員兼任)
吉田 武広 文化・交流課長
金元 伸太郎 スポーツ振興課長 (代表団団員兼任)
千田 美都夫 文化・交流課交流推進係長
田村 崇 教育指導課指導主事
小山 栞 文化・交流課交流推進係主事
選 手 目黒区内中学校第2学年生徒12名

学 校 名	氏 名
目黒区立第一中学校	須藤 子義
目黒区立第七中学校	石川 大翔
目黒区立第八中学校	鈴木 香太郎
目黒区立第九中学校	花岡 大峨
目黒区立第十中学校	石川 七翔
目黒区立第十一中学校	池 敬太郎
目黒区立第十一中学校	矢口 貴登
目黒区立東山中学校	森田 葉
目黒区立目黒中央中学校	柏崎 楽
目黒区立大鳥中学校	石川 凌誠
都立桜修館中等教育学校	李 優彬
多摩大学目黒中学校	村上 裕紀

(2) 代表団 (5名)

青木 英二 目黒区長
尾崎 富雄 教育長
竹内 聡子 文化・スポーツ部長
勝島 壮介 秘書課長
金元 伸太郎 スポーツ振興課長

※7月25日～26日にかけて目黒区議会代表団も中浪区を訪問。

5 概要

(1) 第1日目(令和元年7月23日)

ア 中浪区文化体育館(大会会場での練習)

- ① 日時 令和元年7月23日(火)午後3時から午後5時30分
- ② 場所 中浪文化体育館

翌日から行われるバスケットボール大会に向けて、大会会場である中浪文化体育館で練習を行いました。予定より早く体育館に到着したため、午後3時までは中浪区チームの練習を見学し、午後3時から東城区チームとフロアを半分ずつ使用して練習しました。

2時間半という時間ではありましたが、これまで日本で練習してきた動きや作戦、また試合会場の雰囲気を確認し、翌日の大会に備えていました。



イ 目黒区代表团 中浪区庁長訪問

- ① 日時 令和元年7月23日(火)午後5時30分から午後6時まで
- ② 場所 中浪区役所 区長室
- ③ 参加者 【中浪区】柳 昶基(リュウ ギョンギ) 中浪区庁長ほか3名
【目黒区】区長、教育長、文化・スポーツ部長、目黒区立第十一中学校長、文化・交流課長

中浪区役所内の区長室に招かれ、柳 昶基(リュウ ギョンギ) 中浪区庁長から目黒区の訪問に対し、歓迎のご挨拶をいただきました。

これを受け、目黒区長から今回の歓待と、昨年の三区間交流事業の際の柳 昶基(リュウ ギョンギ) 区庁長等の目黒区への訪問に対する御礼を述べました。また、中浪区、東城区と協力し、中学生たちによる三区間交流事業を成功させ、同じ時代に同じ東アジアに住む中学生のスポーツを通じた交流をもって、東アジアの平和の維持・発展に寄与すること及びこのような交流を続けてきた両区の実績を未来に向けて維持発展させていくために友好交流の覚書から一歩進めて、友好(姉妹)都市協定の締結を行うことの2つの訪問目的についてお伝えしました。

その後の懇談では、中浪区庁長から昨年目黒区に訪れた際に街が非常に美しく保たれていたことについてどのような取組みをされているのかとの質問があり、目黒区長からは清掃協力会など地域住民自らの取組みによって街の美観が維持されていることなどをお伝えしました。

結びに中浪区と目黒区の友好交流が、お互いの春の時期を彩る、中浪区のバラの花、目黒川に咲く満開の桜のように美しく花開き、末長く続いていくことを共に祈念して閉会しました。



ウ 歓迎夕食会（柳 昶基（リュウ ギョンギ）中浪区庁長主催）

- ① 日 時 令和元年7月23日（火）午後6時30分から午後8時30分まで
- ② 場 所 空庭園ザ・パーティ

歓迎夕食会の式典は、三区の選手団、代表団と関係者が一堂に会して開催されました。はじめに、柳 昶基（リュウ ギョンギ）中浪区庁長から「三区の選手たちと三区の実務者が一堂に会し友情を分かち合い交流する嬉しい時間です。三区は、漢字文化圏で育ち、お米を主食とする食習慣など、多くの点で似ています。また、同年代の友人という共通点で互いに差別や偏見なしに心を分かち合うことができると思います。中浪区で多くのことを経験しながら、東アジアの次世代リーダーとして見聞を広げる重要な時間にしてほしいです。」と挨拶がありました。

続いて、目黒区長から「皆さんにはこれからの4日間、素晴らしい時間を共に過ごし、楽しくスポーツや文化体験をする中で、国際人として羽ばたくための良い経験を積んで、そして大いに語らい、大切な仲間をたくさん作ることを期待しています。同じ時代にバスケットボールという同じスポーツを選んだ者同士ですから、国や言葉は違っていても、必ず通じ合えるものが皆さんの中にあるはずです。」と挨拶がありました。

最後に、刘康（リュウ コウ）東城区体育局副調査研究員から、「平成3年10月から、東城区は、目黒区および中浪区と友好都市関係を築いてきました。中でも、三区の青少年によるバスケットボール大会は、画期的な交流事業です。明日に開かれるバスケットボール大会は、三区の友情と交流を推進することになると確信しています。」と挨拶がありました。その後、会場内の参加者が3カ国の言葉で「乾杯!」と声を揃え、和やかな雰囲気ですべての夕食会が始まりました。



(2) 第2日目(令和元年7月24日)

ア スポーツ交流開会式

- ① 日時 令和元年7月24日(水) 午前9時30分から午前10時10分
- ② 場所 中浪文化体育館
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区選手団
【目黒区】区長、教育長、文化・スポーツ部長、秘書課長、スポーツ振興課長ほか

交流事業2日目は、バスケットボール開会式から始まりました。

はじめに、柳 昶基(リュウ ギョング) 中浪区庁長から「今年度、中浪区で三区間交流事業が開催されることを嬉しく思います。歴史、文化も近い同年代の青少年たちがふれあい、東アジアのリーダーとして成長していくみなさんにとって、よい経験になると思います。勝敗に関係なくフェアプレーをしてください。」と挨拶がありました。

続いて、目黒区長から「昨年度の三区間交流事業での選手のプレーする姿は、今でも覚えており、今回中浪区で第3回目の三区間交流事業を開催でき、感無量です。青少年の交流を行っていくことは、明るい未来につながります。スポーツマンシップに則ってプレーしてください。」と挨拶がありました。

最後に、刘康(リュウ コウ) 東城区体育局副調査研究員から、「平成29年7月以来、三区間交流事業はこれまで東城区と目黒区で2回開催されました。毎年7月下旬に、バスケットボール大会が開催されることをとても楽しみにしています。青少年は国の未来と希望です。深い友情を築き、素晴らしいゲームが見られることを期待しています。」と挨拶がありました。

その後、各チームの代表者から挨拶がありました。目黒区の代表挨拶は、キャプテンである第七中学校の石川大翔さんが務め、「目黒区代表として練習してきた成果を活かし、正々堂々とプレーしましょう。」と挨拶を行いました。

東城区代表選手、中浪区代表選手も挨拶して、開会式は終了し、バスケットボール大会の幕が上がりました。



イ 第1試合（中浪区 対 東城区）

- ① 日 時 令和元年7月24日（水）午前10時30分から正午まで
- ② 場 所 中浪文化体育館

第1試合は地元中浪区と東城区の試合でした。応援席には中浪区の子どもたちや保護者の姿があり、試合前から中浪区チームに大きな声援を送っていました。

試合が始まると、体格で勝る東城区がゴール下からのシュートを決めるなど、リードを奪いましたが、中浪区も大歓声に後押しされ、スリーポイントシュートを決めるなど必死に食い下がり、前半は中浪区33点、東城区39点とほぼ互角の戦いとなりました。



後半は、立ち上がりから勢いで勝る中浪区が連続ゴールを奪い、大歓声の中、試合中盤について逆転に成功しました。東城区はたまたまタイムアウトを取り、流れを取り戻そうとしますが、中浪区も意地を見せ、お互い一步も譲らない緊張感のある時間帯が続きました。

足が止まってきた中浪区に対して、コーチからの叱咤激励を受けた東城区が、速攻から得点を重ねていき、最終的に中浪区78点、東城区89点で試合終了となりました。両チームともに素晴らしいプレーが随所に見られる好ゲームとなり、試合終了後は会場から惜しみない拍手が送られました。

ウ テコンドー演武

- ① 日 時 令和元年7月24日（水）午後2時から午後2時30分まで
- ② 場 所 中浪文化体育館

バスケットボール大会第1試合と第2試合の間にテコンドーの演武を観覧しました。テコンドーは、韓国の国技で、来年度に行われる、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、目黒区立中央体育館がテコンドーの練習会場となります。ダイナミック

な技が決まると、会場から大きな歓声上がり、会場が盛り上がりました。



エ 第2試合（目黒区対中浪区）

① 日 時 令和元年7月24日（水）午後3時から午後4時30分まで

② 場 所 中浪文化体育館

第2試合は、目黒区と中浪区との試合でした。目黒区にとっては初戦、中浪区にとっては午前に引き続き2試合目となりました。

試合開始早々、目黒区は初戦の堅さからかパスをカットされ失点してしまいました。しかし、目黒区がすぐに同点に追いついたことで、試合に出ている選手だけでなく、ベンチや応援団も盛り上がりました。その後は一進一退の攻防が続き、第1ピリオドは17対23の僅差で終わりました。



第2ピリオドは、中浪区の選手との身長差からシュートブロックにあったり、中浪区の選手の技術の高さからスリーポイントシュートを連続で入れられたりし、途中23対47と大きく点差が広がりました。試合の流れを変えるため目黒区はタイムアウトをとり選手を落ち着かせ、残り2分からオールコートプレスにしたことで、37対49で第2ピリオドを終えました。



第3ピリオド以降、試合の最後まで目黒区はオールコートプレスを続け、第4ピリオド残り2分45秒には、68対74まで差を縮めることができました。しかしながら、中浪区が最後の力を振り絞り力を出し切ったことで、ここから5連続でポイントを取られ、最終的には目黒区68点、中浪区84点となりました。目黒区の選手は、積極的な姿勢を最後まで貫いたことで、悔いなく試合を終えることができました。

オ 中浪区内視察（中浪スポーツクライミング競技場）

- ① 日 時 令和元年7月24日（水）午後4時から午後5時30分まで
- ② 場 所 中浪スポーツクライミング競技場

2日目の視察場所は、中浪スポーツクライミング場でした。高さ17メートルのクライミングウォールや、最大落差51メートルの龍馬瀑布（人工の滝）は圧巻のスケールで、生徒達も驚きの声をあげていました。講師の指導のもと三区の生徒がクライミングにチャレンジし、高く登れた生徒には各区の生徒たちから大きな拍手が送られていました。



（3）第3日目（令和元年7月25日）

ア 第3試合（目黒区 対 東城区）

- ① 日 時 令和元年7月25日（木）午前10時から午前11時30分まで
- ② 場 所 中浪文化体育館

目黒区、東城区、中浪区の3区が総当りで対戦するため、この試合が3区にとって最後の試合になりました。東城区の選手は目黒区の選手に比べて身長が高く、目黒区の選手にとっては、厳しい戦いになることが予想されました。

第1ピリオド序盤は、東城区のシュートブロックにあい、目黒区はシュートを打てない状況が続きました。そこで目黒区はタイムアウトをとり、監督が選手に対して作戦の確認をしたことによって、目黒区の強みである素早い攻撃を行えるようになり、16対23で第1ピリオドを終えました。

第2ピリオドは、互いにシュートの機会を得ますが、体を張った守りを両チームともに行ったことで、シュートが入らない場面が目立ちました。第2ピリオドは、25対39で終わりました。

目黒区は疲労がたまる中、第3ピリオドから第4ピリオドにかけて、体力的にきついオールコートプレスの戦術で臨みました。応援団の「がんばれ がんばれ めぐる」の声援に励まされながら、最後まで諦めずに試合を行い、結果は、目黒区71点、東城区86点となりました。試合後には選手同士が握手をし、互いの健闘を称え合うとともに、両チームのベンチ、応援団だけでなく、試合を観戦していた中浪区の方からも双方の選手にたく



さんの拍手が送られていたのが印象的でした。



イ 閉会式

- ① 日 時 令和元年7月25日（木）午前11時30分から午後0時10分まで
- ② 場 所 中浪文化体育館
- ③ 参加者 東城区代表团・選手団、中浪区代表团・選手団、目黒区選手団
【目黒区】区長、教育長、文化・スポーツ部長、秘書課長、スポーツ振興課長ほか

閉会式では、柳 昶基（リュウ ギョング）中浪区庁長から「2日間の大会を通じて、私たちはお互いに言語と国籍は異なっていますが、スポーツで1つになることを感じることができました。私たちの縁と熱い友情はこれから先もずっと思い出になるでしょう。」と挨拶があり、目黒区長、陳 献森（チェン シェンセン）東城区人民政府副区长からそれぞれ挨拶がありました。その後、各区から1名ずつ感想を述べました。

目黒区は、第十一中学校の池敬太郎さんが代表して感想を述べました。同様に、東城区チーム及び中浪区チームの選手が感想を述べました。

閉会式後には記念撮影が行われ、試合が終わり緊張がほぐれた選手の顔には笑みが溢れており、2日間にわたり行われたバスケットボール大会は、今後もこのようなスポーツ交流を継続していくことの大切さを再認識し、滞りなく終了しました。





ウ 三区による代表者会議

- ① 日 時 令和元年7月25日（木）午後3時から午後4時まで
- ② 場 所 中浪区役所 企画状況室
- ③ 参加者 【東城区】陳 猷森（チェン シェンセン）東城区人民政府副区長ほか6名
 【中浪区】柳 昶基（リュウ・ギョング）区庁長ほか5名
 【目黒区】区長、教育長、文化・スポーツ部長、文化・交流課長

三区の中学生が文化交流を行っている時間に、三区間交流事業の目的のひとつである、三区の自治体代表による今後の交流の推進に向けた意見交換を行いました。

出席者の紹介の後、中浪区庁長、目黒区長、東城区副区長の挨拶を経て、目黒区と東城区それぞれから中浪区への記念品贈呈があり、中浪区からそれぞれへ返礼品の贈呈がされました。

その後、来年以降の三区間交流事業について協議が行われ、目黒区長からは引き続き本事業を継続すること、開催地は各区持ち回りで来年は東城区で実施すること、競技種目は天候に左右されない室内競技、女子生徒の参加が可能な種目で実施することとし、バドミントンを希望すること、文化芸術分野の交流も並行して検討していきたいこと、来年は東京オリンピック・パラリンピックへの生徒の参加が見込まれることから、8月中旬への開催時期の変更を検討する必要があることなどを述べました。



協議の結果、来年度は東城区で実施すること、種目をバドミントンとすること、開催時期や詳細については実務者協議を継続することが確認されました。

エ 文化体験（ジップライン）

- ① 日 時 令和元年7月25日（木）午後2時から午後3時30分まで
- ② 場 所 中浪キャンプの森

午後の一つ目の視察場所である中浪キャンプの森を訪問しました。週末にはキャンプやジップライン（木々の間に張られたワイヤーロープをプーリーと呼ばれる滑車を使って滑り降りる遊び）を楽しむ人でいっぱいになる人気の公園。選手達の中から4人の希望者が

ジップラインを体験し、リラックスした様子で楽しんでいました。



オ 文化体験（韓紙工芸）

- ① 日 時 令和元年7月25日（木）午後3時から午後6時まで
- ② 場 所 オンギ（甕）テーマ公園

文化体験は、中浪区内にある陶器テーマパークで行われました。韓国の伝統的な紙である「韓紙（はんし）」を用いた工芸と木工体験が行われ、目黒区チームは中浪区チーム6名と一緒に韓紙工芸体験を行いました。1つのテーブルに目黒区と中浪区の生徒が2人ずつ座りました。韓紙は、日本でいう和紙にあたります。今回は、韓国の伝統的な衣装である「チマチョゴリ」を着た男の子と女の子をモチーフとしてペン立てを2個作りました。先生から「チマは韓国語でスカートを、チョゴリは上着という意味です。チマチョゴリは韓国の民族衣装です。」と説明がありました。

バスケットボールで交流を深めた生徒たちは、初日の歓迎会より打ち解けている様子で、作り方をお互いに教え合うなど、積極的に交流を図ろうとする姿勢が多く見られました。



カ 歓送晩餐会（柳 昷基（リュウ ギョンギ）中浪区庁長主催）

- ① 日 時 令和元年7月25日（木）午後6時30分から午後8時30分まで
- ② 場 所 ウィザース中浪
- ③ 参加者 東城区代表団・選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区選手団
【目黒区】区長、教育長、文化・スポーツ部長、秘書課長、スポーツ振興課長ほか

歓送晩餐会は、中浪区で結婚式会場がよく利用される「ウィザース中浪」で行われまし

た。はじめに、柳 昺基（リュウ ギョンギ）中浪区庁長から「青少年によるバスケットボール大会や三区による代表者会議など主な日程を無事に終えたことに心から感謝いたします。私たちにとって、青少年一人ひとは誰よりも明るく輝く大切な存在です。今回の出会いにより、さらに強固な信頼関係を築くことができるよう努めてくださったすべての方に心から感謝いたします。」と挨拶がありました。

続いて、目黒区長から「目黒区、東城区、中浪区の中学生の皆さん。三区間交流事業に参加して、今どんなことを感じていますか。実際に出会って、試合をして、話をして、短い期間に沢山の経験をしました。そのような経験が皆さんを成長させていくことと思います。今後もこの三区間交流事業を継続して、皆さんと同じように貴重な経験をする三区の中学生を増やしていきたいと考えています。」と挨拶がありました。

最後に、陳 献森（チェン シェンセン）東城区人民政府副区長から、「三区間の友好交流推進に取り組んでいる中浪区と目黒区の方々に敬意を表したいと思います。今後、東城区、中浪区、目黒区がこの事業を機に、地方自治体の友好的な交流の役割を積極的に果たし、三区の調和の取れた、繁栄した美しい未来を築くことを願っています。来年、三区間交流事業が東城区で開催され、みなさんと再会するのを楽しみにしています。」と挨拶した後、和やかに晩餐会は始まりました。

バスケットボールの試合で共に戦い親交を深めた生徒たちは、初日の晩餐会と比べて、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られました。晩餐会の終了間際には、肩を組み合って仲良く記念写真を撮る様子など、国境を越えた友情の姿を見ることができました。



(3) 第4日目（令和元年7月26日）

ア 景福宮視察

- ① 日 時 令和元年7月26日（金）午前10時30分から午前11時まで
- ② 場 所 景福宮

景福宮は、1395年に建国された朝鮮王朝の法宮（王の住む宮殿の中で最高位の宮殿）です。「景福」という名称には、「新しい王朝が大きな福に包まれ、繁栄する」ことへの願いが込められています。生徒たちは、景福宮の正殿である勤政殿や王が公式の業務を行った思政殿などを拝観し、朝鮮王朝時代建築や文化について知ることができました。



イ 中浪区との友好都市協定締結式

- ① 日 時 令和元年7月26日（金）午前10時から午前11時まで
- ② 場 所 中浪区役所 企画状況室

朝から大粒の雨が降りしきる中、中浪区庁舎において目黒区と中浪区の友好都市協定締結式が行われました。平成25年10月に覚書を締結した両区は、平成29年から行われている三区間交流事業を経て、友好関係の更なる発展を図るため、協定締結に向けた手続きを進めてきました。今年に入り協定内容等について事務的協議が整い、6月には互いの議会の議決を経て、今回の友好都市協定締結を迎えることとなりました。

冒頭、中浪区長からは「友好都市協定締結を迎えることとなり、大変感慨深いものがあります。今後はスポーツだけでなく、様々な分野で協力できる基盤が作られたと考えています。ただし、協定締結がゴールではなく、中浪区と目黒区は共に発展していく努力を怠ってはなりません。4月には目黒区では桜が満開となり、5月には中浪区ではバラ祭りが開催されます。来年は是非お互いに訪問できればと思っています。今回の中浪区訪問を最後まで楽しんでいただきたい。」と挨拶がありました。

続いて、目黒区長から「中浪区とは2013年に友好交流の覚書を取り交して、正式な交流が始まりました。それ以降、様々な交流を積み上げ、一昨年から東城区を交えた中学生による三区間交流事業が始まりました。このような自治体交流は、他に例を見ない取組であり、同じ東アジアに住む三区の次代を担う子どもたちにとって、大変貴重な体験であります。今回の三区間交流事業で、三区の子どもたちが肩を組み、声を掛け合っている姿を見て、この事業には意味があると私は確信しました。国同士の関係は、時に波風が立つ場面もありますが、そういう時だからこそ、自治体同士の交流は重要であると考えています。この交流が実りあるものになるよう、皆さんに約束したいと思います。」と述べまし

た。その後双方の区議会議長からの挨拶の後、協定書に両区長がサインをし、目黒区と中浪区の友好都市協定が成立しました。



ウ 清溪川博物館視察

- ① 日 時 令和元年7月26日（金）午後1時から午後2時30分まで
- ② 場 所 清溪川博物館

清溪川博物館は、2005年に開館し、清溪川の歴史と文化、そして未来をテーマに展示を行っている博物館です。清溪川はソウル都心部を横切って流れる都市河川として、これまでソウルの景観の変化に応じて様々な姿に変化してきました。清溪川の歴史的な沿革について知ることによって、ソウルの歴史に対する理解を深めることができました。

生徒たちは、見学場所でガイドの方の話を真剣に聞くとともに、「景福宮が何のために建てられたのか」「清流川周辺の住民がどのような暮らしをしていたのか」などガイドの方に質問することで、より深く韓国の歴史や文化について学んでいました。今後、生徒たちが歴史や文化を学ぶ際に参考となる貴重な経験となりました。



6 ま と め

第3回目となった目黒区・東城区・中浪区との三区間交流事業については、4日間の行程をソウル特別市中浪区において、無事予定通り実施することができました。

事業全体を通しては、バスケットボール大会によるスポーツ交流や、韓国の伝統文化体験、中浪区内及びソウル市内視察など、様々な体験をすることができました。

スポーツ交流では、言葉や文化の異なる三区の中学生が、バスケットボールという、共通のルールの下、全力を尽くしチーム一丸となって戦うことで、交流を深め、お互いを理解するきっかけとなるなど、参加した中学生にとって貴重な経験となりました。

文化交流では、韓国の伝統文化である韓紙工芸を体験し、また景福宮などの歴史的施設の見学によって、日本とは違う文化や伝統を身近に感じ、異文化理解を深める貴重な機会となりました。参加した生徒たちには、今回三区間交流事業で得た経験を、今後の学校生活や国際交流を初めとした様々な分野で活かしてくれることを願っています。

なお、次年度以降については、今後も三区間交流事業を実施していくことを三区で確認したところです。課題であった女子生徒の参加についても、三区での合意が得られたため、より一層充実した内容となるように引き続き協議しながら取り組んでいきます。

7 三区間交流事業報告書

三区間交流事業 目黒区選手団団長 金子 弘樹

(目黒区立第十一中学校長)

平成29年から始まった青少年による三区間のスポーツ交流。北京市東城区、目黒区に続いて3回目の今年は、ソウル市中浪区で開催された。長年地道な活動を続け、交流を重ねてきた目黒区の関係者の方々の熱い思いと実績をもとに実現した青少年たちによる今年の交流も、近い将来の国際交流を育む礎となる4日間となった。また、フレンドリーな韓国の選手たちの声かけや「こんにちは」・「你好」のあいさつは、三区の選手たちの言葉や文化の違いを乗り越えるきっかけとなり、選手たちが楽しそうに交流する姿や競技に打ち込む姿は、三区すべての関係者を笑顔にするとともに感動を与えてくれた。

選手たちが一番楽しみに、そして選手たちの感情と技術を爆発させた青少年バスケットボール大会が中浪体育館で行われた。目黒区の選手団は、目黒中央中学校での2回の練習と交流初日の現地での練習を経て大会に臨んだが、今年のチームは高い技術はあるものの、チーム力という点では不透明な状態が直前まで見られた。中浪区や東城区の選手たちの身長の高さや体力の強さに対抗すべく、目黒区のチーム力がどこまで高まるかが課題と思っていたが、目黒区の選手団12名が同じ空間と時間を共有する中で、会話を通してお互いを知り、理解し、認め合うことができた。直接対面での会話の重要性、必要性を改めて感じた1日目だった。

2日目、開会式後の第1試合、中浪区対東城区の試合。両チームの高さとスピード、個人の技量、勝負へのこだわりを目の当たりにして、圧倒された感があったが、逆に闘争心を高める時間、交流ではあるが勝負の場であると感じさせる時間にもなった。第2試合、中浪区対目黒区。午前中の気分の高まりが空回りし、思うようにボールが手につかない時間が過ぎたが、戦術の変更とともに、選手たちの動きが変わった。それはオールコートプレス。一段とチーム力が必要とされる戦術に切り替えたことで、一人ひとりの動きが変わり、コートにいる5人だけでなく、ベンチにいる7人の声援にも変化が見られた。結果は68対84であったが、チーム力を高める貴重な試合となった。

3日目、第3試合。東城区対目黒区。前日は東城区に圧倒された感があったが、当日は逆に闘争心をむき出しにしたチーム力の戦いを前半から仕掛けることができた。激しくぶつかり合う場面が見られたが、お互いのプレーを認め合う姿、また、倒れた選手に手を差し伸べ合う姿も多く見られ、勝負にこだわる中でフェアプレーも多く見られた。結果は61対76となり、2敗となったが、選手たちの頑張りを引き出してくれた選手たち自身の関わる力と、チーム力をさらに高めてくれた応援団の力の大きさを感じる2試合だった。

4日目、ソウル市内観光。景福宮を見学する中で、朝鮮王朝の歴史と文化を学ぶとともに、朝鮮半島及び韓国と日本との関係の歴史を学ぶことができた。国際交流を進める上でも直接見る、聞くことが理解を深めるということでは貴重な体験であることを実感した。

3年間の三区間交流に関わることもできた私にとっても「有難い、そして貴重な」時間となった。未来を創る力である青少年たちの益々の活躍を祈念したいと思う。

8 交流レポート

三区間交流事業 目黒区選手団 選手12名

目黒区立第一中学校 2年B組 須藤 子義

僕はこの三区間交流を通して様々な体験をしました。

最初は、同じ目黒区のチームメイトともうまく会話が続き少し心配でした。しかし、そんなことは杞憂でした。二回目の練習の時にはバスケットを通じてかなり「仲間」という感じになっていました。韓国に行ってからは、韓国、中国の順に試合をしました。残念ながら試合には負けてしまいましたが、途中までかなり接戦でとても悔しかったです。僕は壮行会で「全力で戦う」と宣言しました。試合に出ている、いなくても、全力でプレー、応援するように心がけて試合をすることができました。

文化交流では、韓紙でペン立てをつくったり、テコンドーを見たりと貴重な体験をさせていただきました。また、二回あった中国、韓国の選手との交流夕食会では少し緊張したけれど、各国語で自己紹介をしてその後は英語でお話をしました。身振り手振りでもなんとかコミュニケーションをとって、とても楽しい夕食会でした。

僕は今回の三区間交流で様々なことを学びました。言葉や文化の違いがあれど、伝えたい気持ちがあれば、それが届くこと。たくさんの人の協力や支援で交流が成り立っていて、その事へ感謝を忘れてはならないということ。中国や韓国の選手達のプレー。今の日本と韓国の国同士の関係はよくないけれど、全ての人が日本を嫌いではないこと。これらのことをしっかり部活に持ち帰って皆に伝えたいです。また、僕自身技術面、精神面共に成長していきたいです。この交流を経験させてもらった事への感謝を成長した僕の姿で、プレーで伝えていきたいです。

目黒区立第七中学校 2年A組 石川 大翔

あれ程までに緊張して集中して、楽しく燃えた四日間は経験した事がなかった。

目黒の代表に選ばれた時から、ワクワクとドキドキは止まる事がなく、強いチームと対戦できるという事が嬉しくてたまらなかった。しかし不安な事も沢山あった。

壮行会で初めて他校の代表選手と合流した時は、みんなとコミュニケーションがとれるか心配だった。出発の二日前に伊藤先生からキャプテンだと告げられ、みんなを上手くまとめられるか自信もなく、ただキャプテンとして何が出来るかを考えた。また、現地に入って他国の選手と仲良く出来るのか、諸々の国の事情は難しいけど、コミュニケーションがとれるといいなとも思った。開会式の挨拶を考えなければならないぞとも思った。

出発当日、区役所には早朝だというのに区の職員の方や保護者の方も来て頂きとても有難く、身が引き締まる。人生初の出国は、スタンプを押してもらっただけで興奮。機内食は美味かったが、育ち盛りの十四才には、お腹は満たされなかった。(帰りはおかわりした。)

開会式代表挨拶で緊張。何を言ったか覚えてないが青木区長と握手したことだけは覚えている。そして韓国に着くまでは小さな不安が沢山あったが、現地に入ってバッシュの紐を締めた時に

全ての不安が飛んだ。

対韓国戦では、スピード、パワー、技術、高さ、メンタル全てにおいて自分達をはるかにうわまわっていて、プレーに締めがないことが凄い。必死に根性でついて行くしかないと思った。対中国戦では、ゾーンディフェンスに慣れてなくて苦戦。でもそこはオールコートマンツースでみんなまで走って食いついた。両チーム共とても強かったが、それら全てが楽しかった。楽しくて楽しくてたまらなかった。

今回バスケットボールというスポーツを通じて他国の青少年と関わる大切さや、国や言葉が違っても知っている英語や身振り手振りで通じる事も学ぶ事ができた。プレイ面ではMVPを頂きとても嬉しく思った。

最後にこのような貴重な体験をさせて頂けた事を心から感謝します。僕の青春の思い出の重い一ページとなりました。

目黒区立第八中学校 2年C組 鈴木 香太郎

相手から仲間へ

僕は、七月二十三日に韓国へと行きました。三区間交流事業として目黒区の中学生在十二名代表として集まりました。僕は、目黒区立第八中学校の代表として選ばれました。選ばれたと言っても僕達のチームで二年生は二人、しかも一人は二年生から入った人だったので実際僕しか行ける人がいなかったのです。初めのころは、プレッシャーが大きく、自分でいいのだろうかなど思い、あまり気持ちが進みませんでした。そんな気持ちを抱え、一回目の練習へ行きました。他の選手達もどこか暗く緊張しているように思えました。話せる相手も少なく、全員とは仲良く出来ていないまま、当日が来ました。

朝五時五十分、総合庁舎前集合と、とても早い時間でした。次々と他の選手が集まり韓国へと旅立ちました。韓国へ着くと空気、建物、人が日本とは違い、不安と楽しさで胸がいっぱいになりました。体育館へ行き練習が始まると韓国の選手、中国の選手もいて体格の違い、言語の違いを目の前で実感しました。そのあと夕食会があり韓国の料理を楽しく食べることが出来ました。次の日また体育館へ行き、中国対韓国の試合を見ました。シュート、ドリブル全てレベルが高くて見ていてワクワクしました。次に韓国対目黒区の試合を行いました。試合をする時には、目黒区の選手達が目黒区の仲間になっていました。試合は負けてしまいましたが、日本の強み弱みを知ることが出来ました。次の日、中国と試合をし、文化交流、ソウル市内見学をし、三区間交流事業が終わりました。

僕はこの三区間交流で三泊四日を韓国で過ごして、言語は違っていてもバスケットボールという共通の好きな物があるだけで仲間になれることを知りました。相手の違いを認め共に笑うことで初めて会った仲間との絆が生まれることを知り、体験することが出来ました。

目黒区立第九中学校 2年A組 花岡 大峨

三区間交流事業を通じてたくさんのことを学ぶことが出来ました。僕は三区間交流事業に選ば

れた時は、嬉しさと不安がありました。まず、他校の人たちと仲良くなることができるのか心配でした。しかし、バスケットボールを通じて練習をしていくと、互いに話し合い、助け合えるようになりました。なのでその心配はありませんでした。

まず一日目は、バスケットボールの練習と夕食会がありました。中国・韓国の練習風景をみることができました。やはり日本人と比べると身長が大きく、体がかっちりしているのが印象的でした。夕食会では、言葉がちがうので話すのが大変でした。けれども、ジェスチャーをしたり英語を使うことで相手に物事を伝えることができました。言いたいことが伝わるとなんだか嬉しい気持ちになりました。

二日目は韓国との試合がありました。みんなで全力でバスケットボールをプレーし、とても楽しかったです。結果は負けてしまったけれども、みんなの良いプレーを見ることができ良い体験になりました。

三日目は、中国との試合がありました。韓国との試合で負けて悔しい気持ちのままではいけない、そう思い全力でプレーをしました。しかし、中国は韓国よりも強く僕達は負けてしまいました。ですが、最後の送別会では互いに褒め合い写真を撮ったり、握手などをして、とても楽しかったです。最後に、四日目は、韓国のソウル市内の見学をしました。そこでは実際に、お寺に行き、日本との文化の違いなどを見学しました。最後に、三区間交流事業に参加でき貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

目黒区立第十中学校 2年C組 石川 七翔

今回の三区間スポーツ交流を通して、一生忘れないほどの良い経験をすることができました。僕は、中学校に入ったときにこのような機会があることを知り、ずっと行こうと思っていました。上達するには、より上手な選手と一緒にバスケをした方が多くのことを学べるからです。二年の夏が近づいてきて、先生から話があるのかなと思っていたらいきなり選ばれて、驚いたけれどとても嬉しかったです。選ばれてからの約二ヶ月間、とても楽しみでわくわくしていたけれど、いざ一緒に行く仲間と集まってみると、緊張してなかなか話しかけることができずにいました。元から知っていた人も何人かいたけれど、共に四日間過ごし、試合に出る仲間なので、全員と仲良くなりたいと思っていました。そう思いながら飛行機に乗りました。僕は酔いやすいので窓際に座りました。隣は話したことの無い人で、その隣は友達でした。気まずいと思っていたけれど、勇気を出して話しかけてみると、意外と会話が弾み、韓国に着いたときにはとても仲良くなりました。

試合では中国・韓国の選手との距離が縮んだ気がしました。一日目の夜の夕食歓迎会のときは韓国の選手と一言だけしか話せなかったけど、三日目の試合をした後の送別会では、言葉は通じないけれど英語やジェスチャーなど使って、他の国の人と話せてとても嬉しかったです。中国とは、体格の差がかなりあったのに、あれほどの接戦ができて嬉しいです。韓国とは、前半でダブルスコア以上離されたのに、後半で一桁まで差を縮めることができとても嬉しかったです。

僕は今回の交流に参加できたことを誇りに思います。外国の人と一緒にスポーツをする機会は滅多にないと思います。中国・韓国の人たちと試合をして学んだことや、韓国へ行って学んだ、人としての行動・マナーなどを自分だけに留めず、友達や部活の仲間に伝え、今後のバスケ人生

に活かしていきたいと思います。

目黒区立第十一中学校 2年A組 矢口 貴登

僕はこの事業に参加することが決まって不安でした。理由は全く言葉が通じない韓国、中国の選手達としっかり交流ができるかどうか。そして、少ない練習でチームがまとまるのか、チームメイトと仲良くなれるかです。

ただその不安は練習をするにつれてなくなりました。皆で集まるごとに、仲良くなりチームとしてまとまるのを実感できました。

三区間交流事業本番の日。僕達は歓迎夕食会に招待されて丸いテーブルに中国・韓国・日本の選手が二人ずつ座りました。不安でしたが韓国の選手達が積極的にコミュニケーションをとってくれたので、交流することができました。

二日目。この日は韓国の選手達と試合でした。試合は韓国がリードしていて最大二十二点差あった点差が六点差まで追いつけることができました。ですがその後、ディフェンスで止めることができず、韓国に逃げ切られてしまいました。

三日目。この日は中国の選手達と試合でした。中国との試合は最初の方は同点でいい試合をしていたんですが、途中から身長の高さをいかして中国のチームと差が開いていきました。頑張ってもディフェンスで止められず負けてしまいました。

四日目。三区間交流最後の日。この日は、景福宮というところを見学しに行きました。たくさんの宮殿があって、それごとに壁の模様が違って面白かったです。そして清溪川博物館に行って、清溪川の歴史について学びました。当時の様子が模型で再現されて、分かりやすかったです。

僕はこの三区間交流事業を通してコミュニケーションをとる上で言葉の大切さと試合を通じて体格差を感じました。これから、言葉の点では英語に力を入れ、体格については、日頃の練習と筋トレを頑張っていきたいと思います。この度は、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

目黒区立第十一中学校 2年B組 池 敬太郎

僕はこの「三区間交流事業」に副キャプテンとして参加させていただき、学ぶことがたくさんありました。

最初の練習ではみんな緊張していてとても静かで、このチームの課題だと思いました。しかし次の練習ではキャプテンを中心として少しずつですが、みんな声を出すようになりました。そして次に会った時には三回目かと思うくらいまで仲良くなりました。

韓国についてからのスケジュールは一日目は練習見学と練習と歓迎夕食会でした。

まず練習見学では背がみんな高くて少し怖かったです。その後の練習では目黒区らしくプレーをすることを心がけてやりました。その後の歓迎夕食会では全く交流をすることができずに終わってしまいました。

二日目と三日目の主な日程は試合観戦と、試合、文化交流、送別会でした。

試合観戦ではレベルがとても高く、本当に中学生かと疑うほどでした。二日目は中浪区とやらせていただきました。最初は緊張していたのであまり良いプレーはできませんでしたが、だんだん目黒区らしいプレーがでてきて差が二十点差ぐらいから一桁までもっていくことができました。しかし最後は十六点差とひらいてしまいましたがい経験となりました。三日目は東城区とやりました。最初は背で封じられてしまいましたが、パスをまわしたり、スリーポイントシュートを決めたりと、日本らしいプレーが出てきました。しかしこの試合も十六点差と開いてしまいましたが、いい経験となりました。

文化交流、送別会では初日とは全く違い緊張せずに、英語やジェスチャーで話すことができ、交流しすぎと先生に言われるぐらいでした。

最後に副キャプテンとしての行動はあまりできませんでしたが、声を出す重要さなどをチームのみんなに伝えたいです。

関係者の皆様ありがとうございました。

目黒区立第東山中学校 2年B組 森田 葉

三区間交流を通して学んだこと

私は、この三区間交流で学んだことがたくさんあります。

一つ目は、他国の人との交流の大切さです。最初は韓国の人や中国の人と話すのがとても緊張していて、少し恐れていました。

しかし、一日目の夕食では翻訳アプリを用いて、たくさん話したり、ジェスチャーを使って仲良くすることができました。二日目は、バスケットボールの試合や、記念品交換をしてさらに仲良くすることができました。三日目は一緒に韓紙工芸体験でペンケースを作りました。たくさんコミュニケーションをとることができました。また、夕食は中浪区、東城区の人たちと交流する最後の時間でした。席に座ったときからたくさん話すことができ、とてもよかったです。とても仲良くできて、出会って三日目とは思えないほどでした。最後に別れるときには、たくさん写真を撮ったり、握手をしたり、ハグもしたりしていました。そして、別れるのがとても悲しかったです。

学んだことの二つ目は、友達の大切さです。私は最初、練習会のとき、あまりチームメイトと仲良くすることができないまま終わってしまいました。しかし、韓国に行くときには、かなり仲良くできて、たくさんしゃべることができました。バスケットボールのプレイ面でも、最初はあまり声を出すことができなかつたけれど、即席チームとは思えないほど協力することができました。中浪区と東城区のチームはとても身長が高くておどろいたけど、チームメイトと協力していい試合になったと思います。

最後に私は、今回の交流事業を通してコミュニケーションの大切さを学びました。この経験を、日常に生かしていきたいと思います。

今回の三区間交流は自分にとって、とってもいい経験になったと思います。理由は三つあります。

一つ目は、日本から離れて韓国に行き韓国と中国の中学生と関わりを持てたという事です。言語がまったくちがっても共通語の英語やジェスチャーなどで自分の伝えたい事が言えたりしてとってもよかったなと思いました。それに韓国や中国の子たちも携帯などをつかって日本語で話してくれて会話がはずみとっても楽しかったです。

二つ目は、試合についてです。試合はどちらとも負けてしまったけれどもとってもいい試合ができたのではないかと思います。韓国戦、第1Q～第3Qまでほぼ互角で第4Qの後半で何点かはなされてしまい気持ちがゆるんで負けてしまったのかなと思います。中国戦も同じように前半はとっても良い試合で気持ちで負けてしまったのかなと思います。あと中国戦は僕の中ですごい自信になりました。とっても背の高い選手相手に自信をもってシュートが打てて3ポイントも決めれてどんどん部活でも打っていきたいです。

三つ目は、目黒区の中学校の子とも仲良くなれた事です。最初の空港ではあまりしゃべらなくて「これからどうしよう」と考えていたけれどみんなでごはんを食べているときや試合中の中でどんどんコミュニケーションなどがとれて気楽に話せるようになりました。

三区間交流事業を終えて

僕は、この体験を行ってみたいなど前から思っていました。そのため、このお話を聞いた時、とてもうれしかったです。

僕はこの体験で変わったと思う事が二つあります。

まず一つ目は積極性です。一日目の夕食の時、他の国の人が話してくれてもちよとした返事ができず、すこしくやしかったです。そのため、残りはチームメイトや他国の人と話そうと決めました。その結果、三日目の夕食では色々な人とジェスチャーや少しだけしか話せない英語を使い、たくさんの人とコミュニケーションがとれました。他の国の人たちはとてもおもしろく、もっとはやく仲良くなればよかったと思いました。

二つ目はバスケットに対する姿勢です。他の国の人はとても強かったです。しかしあきらめずに戦って目黒区の応援団の方々に応援されて、とてもうれしかったです。二つの国に負けてしまったけど、良い試合ができたと思います。一緒に戦ったチームメイトはみんな上手で区の大会で戦ったら勝てるかが心配です。そのためしっかり練習して一位になりたいです。

この交流事業は、家族の支えがなければ絶対成功しなかったと思います。準備を手伝ってくれたり、説明会につきそってくれたり、当日の朝と帰国の夜おそくにもおむかえにきてくれたりと色々な所で支えてくれました。また、顧問の先生が自分を選んでくれた事や部活のみんなや友達から応援されたのでここまで成長できたと思います。文章だけでは伝えきれない程、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

この経験を生かし積極的にコミュニケーションをとり、今までよりもっとバスケットをがんばりたい

いです。

都立桜修館中等教育学校 2年B組 李 優彬

他を尊敬し礼儀を守ること

ぼくが、今回の三区間交流会で学んだことは二つあります一つ目は礼儀で二つ目は協力性です。

まず一つ目の礼儀とは、ぼくが三区間交流会初日の時、中浪区の体育館へ行きました。体育館の中には先に韓国の選手たちが練習をしていました。ぼくたちは無言でその場を通り過ぎようとした時、韓国の選手たちがぼくたちに向かいあいさつをしてくれました。ぼくはそのとき、ぼくは自ら相手のチーム対してあいさつをするという大切さを学びました。

さらに、最終日の食事会では話題の無かったぼくたちに、中国の選手や韓国の選手などが話題を作ってくれ食事会の最後にはみんなで盛り上がる事が出来ました。このようなことから、自分から人のために尽くす事が出来る礼儀も大切だと実感しました。

次に二つ目の協力性について、ぼくたちが中国や韓国との試合で日本のチームは平均的に身長が低かったのですが身長の高い相手チームに対しすばやくパスをまわし得点を最高で5点差でおさえることが出来ました。このように、仲間と協力することで大きなことを成しとげられると学びました。

ぼくは、三区間交流会でこのようなことを学びこれからもバスケットボールや普段の生活に生かしていきたいと思いました。そして、これらの特別な経験をした自分だけが知れたことを、周りの人にも伝えていきたいと思いました。

多摩大学目黒中学校 2年B組 村上 裕紀

三区間交流を終えて感じたこと

僕はこの三区間交流を終えて、色々なことを学びました。例えば自分の周りとの練習量の違いや自分の英会話の力などです。

試合は、韓国に六十八対八十四で負けてしまい、中国には六十一対七十六で負けてしまいました。しかし、途中からオールコートプレスをして、韓国には二桁差から一桁差まで持ち込むことができました。しかし、体力をすごく使いました。僕は、そのディフェンスをあまりした事ありません。自分を見て、応援するだけで精一杯でした。しかし、流れを変えるために出て見よう見真似でやってみると難しく、体力の消耗が激しく、試合の終盤には、とてもバテてしまいました。そこでみんなとの差を感じてしまいました。それからというもの、僕はディフェンスに力を入れようと思いました。頭の中で試合を思い出して、相手はどんな姿勢をしていたか、自分の味方はどんな動き方をしていたかなどを思い出して真似をしよう決めました。そして、その他にも色々な反省点があるので改善をしていきたいです。この三区間交流で、色々なことが分かったので嬉しいです。

その他には英語をもっと勉強しようと思いました。中国人と韓国人は英語でほぼ伝わります。しかし、僕は英語が苦手です。同じチームメイトはすぐに仲良くなり、たくさんの人と話してい

ました。それを見て、僕はうらやましく思っていました。なので、次からは自ら動き、たくさんの人に話しかけ仲良くすると決めました。

僕はこの三区間交流では自分の成長につながり、反省点が見つかったので改善していきたいです。そしてこの経験は、自分にとって最高の思い出となりました。来年チャレンジする皆さんもとても楽しかったので頑張ってチャレンジしてほしいです。

Ⅲ おわりに

平成29年度に第1回、そして平成30年度に第2回が行われた目黒区・東城区・中浪区による三区間交流事業は、今回中浪区での実施により、友好交流がさらに一步前進するというすばらしい結果となりました。

本事業の実施にご協力いただいた、東城区、中浪区政府関係者に対して、改めて御礼を述べるとともに、心から敬意を表したいと思います。

また、目黒区選手団の試合を応援するために、目黒区日韓議員連盟、目黒区日韓親善協会及び在日本大韓民国民団目黒支部、目黒区日中友好協会の皆様が応援団を編成し、現地で選手への熱い応援をいただきました。この場をお借りしまして、御礼を申し上げます。

今回で、三区間交流事業は開催国が一巡することになります。今回行われた三区による代表者会議の中で、来年度の本事業は東城区で開催すること、スポーツ交流の種目は女子選手も参加可能なバドミントンとすることを確認しました。今後、三区の実務者で具体的な協議を行い、議会をはじめ関係機関とも調整しながら進めていきます。

【参考資料】

三区間交流事業事前調査（ソウル特別市中浪区）【4月17日～19日】

1 目的

今回の訪問の目的は、令和元年7月23日（火）から26日（金）にソウル特別市中浪区において実施される、目黒区、北京市東城区及び韓国ソウル特別市中浪区の三区による三区間交流事業の実施に当たり、実際に子どもたちが使用する体育施設や見学施設などを、現地において調査を行うほか、今回の交流事業詳細確認や次年度以降の交流推進に向け、中浪区政府関係者と協議・意見交換を行うことです。

- (1) 三区間交流事業実施に伴う現地調査及び協議
- (2) 次年度以降の三区間による交流推進に向けた意見交換

2 日程

平成31年4月17日（水）から4月19日（金）まで（2泊3日）

月日	時間帯	内容	場所
4月17日 （水）	午前	中浪区到着	—
	午後	中浪区庁長表敬訪問 目黒区・中浪区友好都市協定実務者協議	中浪区役所 区長室 中浪区役所 小会議室
4月18日 （木）	午前	中浪区内視察	オンギ（甕）テーマ公園
	午後	中浪区内視察 三区間交流事業実務者協議 歓迎晩餐会（区長主催）	中浪アートセンター 中浪区役所 企画状況室 ウィザース中浪
4月19日 （金）	午前	中浪区内視察	中浪文化体育館 龍馬滝公園
	午後	歓送午餐会（副区長主催） 帰国	空庭園ザ・パーティ —

<参考>経費負担（区訪問団5名分）

宿泊旅費、現地車両費、通訳士経費、記念品等 1,018千円余。

※三区間の取決めにより、夕食会経費は中浪区側が負担。

3 訪問団

竹内 聡子 文化・スポーツ部長
金子 弘樹 目黒区立第十一中学校長
吉田 武広 文化・交流課長
千田 美都夫 文化・交流課交流推進係長
田村 崇 教育指導課指導主事

4 概 要

(1) 中浪区庁長表敬訪問

- ①日 時 平成31年4月17日(水) 午後3時30分から3時50分
- ②場 所 中浪区庁長応接室
- ③対応者 柳 昶基(リュウ ギョング) 区庁長他2名

はじめに、柳 昶基(リュウ ギョング) 区庁長から、「昨年目の黒区での歓迎についてはとても良く覚えている。三区間交流事業については、とても画期的な事業であり、特に三区の青少年同士による交流は未来に貢献する大変有意義なものである。昨年の事業に参加した子ども達の保護者からは、大変感謝しているという話も聞いている。今後はスポーツだけでなく、文化や芸術といった分野に発展していければ良いと考えている。」と発言がありました。その後は、資料に基づいて中浪区の人口や、地形についてなどを伺い、終始和やかな雰囲気での懇談が行われました。



(2) 目黒区・中浪区友好都市協定実務者協議

- ①日 時 平成31年4月17日(水) 午後4時から午後5時まで
- ②場 所 中浪区庁舎 4階小会議室
- ③対応者 柳 慶愛(ユ ギョング) 行政局長他3名

表敬訪問を終えた後、引き続き友好都市協定締結に関する実務者による協議が行われました。友好都市協定締結についての両区の議会日程や協定書の内容、議決が得られた場合の実施場所や時期などについて意見交換し、両区の状況を確認しました。



(3) オンギ(甕)テーマ公園視察

①日 時 平成31年4月18日(木) 午前10時から10時30分

②場 所 オンギテーマ公園

③対応者 中浪区職員

以前建設用火薬類の販売・貯蔵施設として使用していた土地を、再開発し、韓国でキムチを漬ける時などに使用する伝統の壺「甕器(オンギ)」をテーマにした、陶芸体験や木工体験などの活動ができるよう整備した公園。公園頂上付近には、高齢者の雇用を目的として設置されたカフェなどが設けられ、住民の憩いの場となっていました。



(4) 中浪アートセンター視察

①日 時 平成31年4月18日(木) 午後1時から1時30分

②場 所 中浪アートセンター

③対応者 中浪区職員

国内外の代表的な作家たちの企画展示を行い、学術セミナーや芸術体験などの多様な活動を行っている美術館。訪問した際はちょうど展覧会の会期中であり、様々な作品が展示されていました。また、美術館主催の文化セミナーには多くの区民が参加しており、熱心に講師の話しを聴いている姿が印象的でした。敷地内には「文化の家」というブックカフェがあり、美術館を訪れた区民がひと休みする光景も見られました。



(5) 三区間交流事業実務者協議

①日 時 平成31年4月18日(木) 午後3時30分から5時30分

②場 所 中浪区庁舎 4階企画状況室

③参加者 中浪区 柳 慶愛(ユギョンエ) 行政局長他6名
東城区 張 慶春(ジャン チェンチョン) 体育局副局長他5名

この日の午後から参加した東城区訪問団を交えて三区間交流事業実務者協議が行われました。冒頭各区それぞれの列席者の紹介ののち、まずは今年の三区間交流事業について日程については7月23日(火)から26日(金)の3泊4日とすることを確認した後、試合会場は中浪文化体育館とすることで合意しました。また、出場選手、試合方式、優秀選手の選出などについても確認を行いました。

その後、来年度の三区間交流事業について議論がなされました。様々な意見が出ましたが、目黒区としては、次回の三区間交流事業には女子選手の参加を強く希望する旨を伝え、また、まずは今年のバスケットボール大会を成功させることが大事であることを確認しました。来年度の競技や日程については、引き続き三区で協議していくことが共有されました。



(6) 歓迎晩餐会(中浪区庁長主催)

①日 時 平成31年4月18日(木) 午後6時から8時

②場 所 ウィズアス中浪

- ③参加者 中浪区 柳 昶基（リュウ ギョング）区庁長、
曹 喜鍾（チョウ ヒジョン）議長 他11名
東城区 張 慶春（ジャン チェンチョン）体育局副局長他5名

はじめに、中浪区庁長から「両区ともに遠いところから来てくれて感謝している。三区での青少年交流はとても意義あるものなので、今年の中浪区での大会も皆さんの協力を得ながら素晴らしいものにしていきたい」と挨拶がありました。

その後は、会食をしながら、今後の交流促進についての話しや、お互いの区の状況など、終始和やかに懇談が行われました。



（7）中浪文化体育館、龍馬瀑布公園視察

- ①日 時 平成31年4月19日（金） 午前10時から11時45分
②場 所 中浪文化体育館、龍馬瀑布公園
③対応者 中浪区職員

中浪文化体育館は、地下2階・地上3階で、プール、ジム、多目的体育館、生活体育室、文化教室などがある複合施設でした。当日は体育館でダンス教室が行われていたほか、多くの市民が施設を利用し、地域に密着した施設であることが分かりました。観客席や更衣室なども視察を行い、競技施設としてふさわしいことを確認しました。

その後、同じ敷地内にある龍馬瀑布公園を視察しました。こちらの公園は、採石場跡地の形状を活かし、3つの人口滝が造成され、市民の憩いの場となっていました。また、公園の中央には、高さ17メートル、幅30センチの屋外クライミングウォールがあり、本格的に競技をする方から、初心者まで楽しめるような施設となっていました。



5 まとめ

今回の事前調査で、令和元年7月に開催予定の三区間交流事業に参加する子どもたちが安全に全行程を遂行できるよう、宿泊施設、訪問する予定の体育施設及び文化施設を調査でき、十分な成果をあげることができました。

